

福島県原子力防災訓練に参加して

10月22日、檜葉町と広野町の原子力防災訓練が行われ、参加しました。職場では、「上田さん、観光旅行ではないんだから」「会津で土産をお願い」との声あり。

当日は防災無線で、避難訓練のサイレンが鳴る中、8:00に一時集合場所になっている檜葉南小学校に集合しました。防災訓練についての説明があり、その場で安定ヨウ素剤が配られました。檜葉町からはバス5台で、常磐道を通って約2時間30分、檜葉町の姉妹都市になっている会津美里町へ避難をしました。常磐道なので、猪苗代湖は見えませんが、会津磐梯山は紅葉の真っ盛りでした（避難訓練なので本題に戻す）。

最初に会津大学へ行きました。ここで、スクリーニング検査です。スクリーニング検査では、放射線の被ばく線量を測って、基準値以下でないと、次の避難場所へ行くことができません。私が乗ったバスはバスのスクリーニング検査だけで、人の検査は省略されました。3・11の時はこの時、子ども達には薬が配られました。その薬が何なのかは分からず、後で甲状腺がんを予防するための安定ヨウ素剤であることが分かりました。

次に避難中継所になっている、会津美里町の本郷老人福祉センターへ行きました。ここでは、会津美里町の職員による避難所の振り分け作業について見学しました。

最後は、会津美里町の本郷第二体育館へ行きました。ここは、実際に3・11の時に避難場所になった所です。ここでは4班に分かれて、避難所等開設訓練をしました。檜葉町の町民も146人が、今も会津美里町の仮設住宅で避難生活を送っています。浜通りは冬は比較的暖かですが、豪雪地帯の会津美里町で、6回目の冬を迎えようとしています。会津美里町の避難者も体育館にバス1台で来ました。そこで檜葉町の人達と久しぶりに再会して、さながら同窓会になりました。帰りは、「道の駅ばんだい」に寄って、休憩と買い物をしました（避難訓練なので本題に戻す）。

3・12の時は、檜葉町の町民の多くは、1回目はいわき市に、2回目は会津美里町へ避難しました。町民の人達は、誰もが何で避難するのかもわからないで、2・3日で帰れると思っていました。それが、4年6カ月もの間、帰れなくなってしまったです。

*2011年3月12日 檜葉町民全員が、いわき市へ避難（1回目の避難）

*2011年3月16日 檜葉町民全員が、いわき市から会津美里町へ避難（2回目の避難）

*2015年9月1日 檜葉町 避難指示解除 全町民が帰還可能に

*2015年12月1日現在 檜葉町 帰還した町民 1割弱

福島第二原発（檜葉町・富岡町）の4基が廃炉になるまで、原子力防災訓練は、この先50年～100年、毎年実施される。たかが1私企業（東京電力）の利益追求（原発）のために、周辺（半径30km圏内）の自治体は「避難計画」の作成が義務付けられ、何で住民は防災訓練をしなければならないのか。

【バスのスクリーニング検査（会津大学）】



【3・11の時も避難所になった 本郷第二体育館（会津美里町）】



【原発被災地を巡るツアー】（いわき駅集合・解散、費用約1万1千円）

（第1回）2月4日（土）～5日（日） 1泊2日

（第2回）2月25日（土）～26日（日） 1泊2日

参加希望者は 上田 まで メールにて